

巻頭写真 鹿児島県東黒土田遺跡から出土した縄文時代最古の貯蔵穴

Oldest acorn storage pit of the Jomon period excavated at the Higashi-Kurotsuchida site, Kagoshima Prefecture, Southern Kyushu

東黒土田遺跡は、鹿児島県志布志市志布志町内之倉に位置し、志布志湾に注ぐ前川の上流の狭い谷頭平地に突き出した台地に立地する、縄文時代草創期の遺跡である。1980年12月に河口貞徳・瀬戸口望両氏によって発掘調査が行われ、薩摩火山灰層 (Sz-S: 約 12,800 cal BP) よりも下位の層準から12点の土器と3点の石器、舟形配石炉 (写真4)、貯蔵穴とその内部から炭化したコナラ属子葉 (写真1) が出土した (瀬戸口, 1981; 河口, 1982)。東黒土田遺跡の貯蔵穴はすでに30年以上前に発掘された資料であり、考古学では度々取り上げられてきた資料であるが、『植生史研究』においても改めてその資料の重要性を示しておきたい。

東黒土田遺跡の貯蔵穴は基盤のシラス層に掘りこまれている (写真2)。直径40 cm、深さ25 cmの浅鉢状を呈し、内部には炭化したコナラ属子葉がびっしりと詰まっていた (写真3)。発掘調査時に取り上げられた炭化子葉は乾燥重量で合計155 gで、楕円形のもの、長楕円形のもの、正円に近いものがある (写真1, 写真5)。炭化子葉の樹種については、「イチイガシ」 (瀬戸口, 1981), 「クヌギ, カシワなどの落葉性のコナラ属」 (同定は粉川昭平氏による) (河口, 1982), 「アク抜きをしないと食べられないナラ類・カシ類」 (渡辺, 1996) などの記載がある。

このコナラ属炭化子葉については、発掘調査時にβ線計測法による¹⁴C年代測定が実施されており、 $11,300 \pm 130$ ¹⁴C BPの測定結果が報告されている。筆者らは2010年に新たにAMS法による¹⁴C年代測定を行い、 $11,530 \pm 35$ ¹⁴C BP, $11,555 \pm 35$ ¹⁴C BPの2点の測定結果を得た (工藤, 投稿中; 写真7)。IntCal09による較正年代では約13,400年前のものであり、南九州の縄文時代草創期の隆帯文土器群の年代とも整合的であった。東黒土田遺跡から出土した土器片にも隆帯文土器が1点含まれている (写真6)。東黒土田遺跡の資料は、現時点では縄文時代最古の貯蔵穴出土堅果類である。

東黒土田遺跡の貯蔵穴や南九州の隆帯文土器群は、晩氷期の温暖期 (約15,000 ~ 13,000 cal BP) の後半段階に位置づけられる。南九州の隆帯文土器の時期には、植物質食料の粉碎・加工具である大型の石皿や磨石が多く出土



写真2 1980年の発掘調査前の露頭。茶園の造成工事の際に、一部破壊された貯蔵穴が見つかった (左手前の黒ずんだ部分)。



写真1 貯蔵穴から出土したコナラ属炭化子葉 (現在黎明館にて展示されている資料、子葉が楕円形のものと長楕円形のもの、正円に近いものがある)。

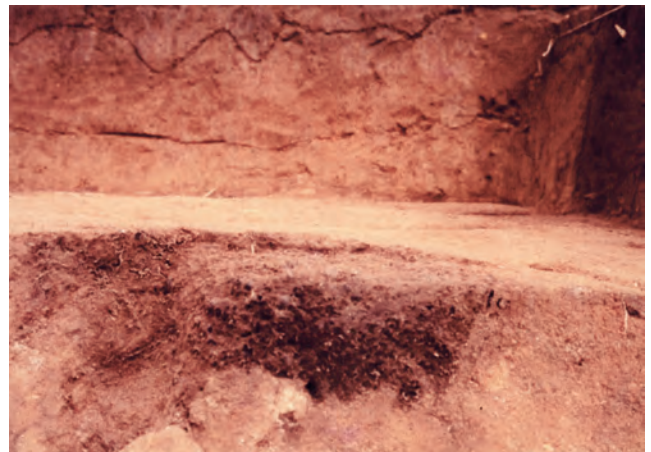


写真3 貯蔵穴検出時の断面。中央の浅鉢状に黒ずんだ部分がコナラ属子葉の集積した部分。



写真4 舟形配石炉の検出状況。貯蔵穴は右手前の断面で見つかった（写真の範囲外）。写真奥の壁面に白く見える堆積物はアカホヤ火山灰層，その数十cm下には薩摩火山灰層が検出され，舟形配石炉と貯蔵穴は薩摩火山灰層の下部から出土している。



写真7 年代測定を行ったコナラ属炭化子葉。上段の右側2点が今回新たに測定した試料。スケールは10 mm。



写真5 黎明館にて保管されているコナラ属炭化子葉。長楕円形の個体も多い。



写真6 出土した縄文時代草創期の隆帯文土器。

しており，また土器も本州島の同時期の隆起線文土器より大型である。晩氷期の温暖期に南九州では，これらの土器や石皿，磨石などを利用して，コナラ属などの堅果類の利用が活発に行われていたようである。最終氷期末の南九州における植生変化と，旧石器時代末から縄文時代開始期の人類活動の変化との関連性を考える上で，これらの炭化コナラ属子葉の種を同定することは重要な課題であり，現在，小畑弘己氏らによって研究が進められている。

東黒土田遺跡の出土品は，2001年に瀬戸口望氏のご遺族から鹿児島県歴史資料センター黎明館へ寄贈され，その一部が黎明館に展示されている。

引用文献

瀬戸口 望，1981. 東黒土田遺跡発掘調査報告. 鹿児島考古 15: 22-54.

工藤雄一郎，投稿中. 東黒土田遺跡の貯蔵穴出土堅果類と南九州の隆帯文土器の年代. 考古学研究.

河口貞徳，1982. 縄文草創期の貯蔵穴-鹿児島県東黒土田遺跡-。季刊考古学 創刊号: 63.

渡辺 誠，1996. 縄文時代の経済基盤. 「考古学による日本歴史2 産業I 狩猟・漁業・農業」(大塚初重・白石太郎・西谷 正・町田 章編)，27-39. 雄山閣，東京.

(写真1・5・6は工藤雄一郎撮影，写真2〜4は瀬戸口望撮影・鹿児島県歴史資料センター黎明館提供)

(工藤雄一郎・東 和幸 Yuichiro Kudo and Kazuyuki Higashi)